



校長室だよ

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第6号 令和3年6月4日

小美玉市立美野里中学校

あなたは「挨拶」ができる人？できない人？

朝夕、生徒が登下校するときに校門に立っていると、元気のよい、あるいは丁寧な挨拶をできる生徒が大部分ですが、中にはこちらから声をかけても素通りしたり、消え入りそうな声で挨拶をしたりする生徒を見かけます。そんなとき、私は、この子は何かあったのかな、今どんな気持ちで過ごしているのかなと思っています。

人間は生きているのですから、ときには挨拶もしたくないようなこともあるでしょう。目を合わせて挨拶するのがつらい日もあるでしょう。でも、それが「いつも」となると、心配になってしまいます。

これまでの育ちの中で身に付かないでしまったのか、挨拶の大切さが理解できていないのか。でも、挨拶をできる人になれるかなれないかは、自分で決めることができます。挨拶ができなかった人ができるようになるのは、身近で、分かりやすい「自己変革」です。

私は、挨拶ができるかできないかは、「心の窓を外に向かって開くことができるか、できないか」だと思っています。

挨拶ができるかできないかで、

- ・自分の中の気分が変わる
- ・外との関係が変わる

のです。

気分を変えたいときほど、挨拶の効果はてきめんです。

なぜなら、明るく挨拶しようと思うと、自然に表情が変わり、声のトーンも高くなるからです。特に、一日のスタートは大切です。その日をハッピーにすることが、自分でできるのです。

大学時代、「企業は、就職面接で応援団員を採用したがる」という話を聞いたことがあります。他の人を応援する気持ちが強く、気持ちのよい挨拶ができるからでしょう。

ぜひ、お家の中でも、日々、日常的に「おはよう」「ありがとう」「いただきます」「ごちそうさま」「おやすみ」などの挨拶をしていただきたいと思います。

一見何気ないことですが、一日一日の積み上げですから、お子様の将来にもよい習慣としてじわじわと表れ、他の人にも認められる人間性に結び付いてきます。

「挨拶」は社会とつながる第一歩。「自立」とも大いに関係のあることなのです。

